

施策	22	義務教育の充実	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり		
施策主管課	学校教育課	課長名	林 保彦	内線	3710	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課、公民館、文化会館						
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画					

1 施策の目的

目的	対象	児童、生徒(含外国籍児童、生徒)
	意図	生きる力(知育・徳育・体育)をつける 地域の未来を拓いていける人材を育成する

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
児童、生徒の数 (5/1現在) ア)小学校 イ)中学校	人	ア)6,313 イ)3,151	ア)6,237 イ)3,095	ア)6,160 イ)3,089	ア)6,014 イ)3,152	ア)5,874 イ)3,140	ア)5,751 イ)3,168	ア)5,767 イ)3,073
成果指標 成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
学力の水準 ア)小学校(6年)国語 イ)小学校(6年)算数 ウ)中学校(3年)国語 エ)中学校(3年)数学	長野県は市町村別の数値を非公開のため、以下により傾向を表示 :全国正答率より高い :全国正答率と同水準 :全国正答率より低い	ア) イ) ウ) エ)	- (抽出のみ)	- (実施無し)	ア) イ) ウ) エ)	ア) イ) ウ) エ)	ア) イ) ウ) エ)	ア)52.0 イ)52.5 全国学力・学習状況調査の全国正答率と同水準以上
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合 ア)小学校 イ)中学校	%	ア)91.2 イ)78.9	ア)94.4 イ)86.4	ア)91.6 イ)77.9	ア)92.0 イ)80.5	ア)90.1 イ)87.2	ア)90.9 イ)84.1	ア)95.0 イ)90.0
体力測定の結果 ア)小学校 イ)中学校	調査種目4種目を抽出し、得点表から合計点を算出 小5国(男28 女29) 中2国(男23 女26)	ア)男27 女27 イ)男21 女24	ア)男26 女28 イ)男22 女22	ア)男27 女27 イ)男21 女23	ア)男27 女28 イ)男21 女23	ア)男26 女28 イ)男22 女23	ア)男27 女29 イ)男22 女25	ア)男26 女27 イ)男21 女24
いじめを把握した中解決した割合 ア)小学校 イ)中学校	%	ア)62.5 イ)74.4	ア)86.0 イ)51.4	ア)69.6 イ)73.9	ア)86.6 イ)72.5	ア)88.8 イ)97.7	ア)85.1 イ)97.8	ア)84.0 イ)65.0
不登校の児童生徒の在籍比 ア)小学校 イ)中学校	%	ア)0.32 イ)2.67	ア)0.35 イ)2.13	ア)0.29 イ)2.56	ア)0.20 イ)2.47	ア)0.20 イ)2.52	ア)0.47 イ)1.95	ア)0.30 イ)2.10
地域活動(ボランティア活動を含む)に参加している児童生徒の割合 ア)小学校 イ)中学校	%	ア)83.0 イ)57.4	ア) イ)-	ア) イ)-	ア)87.9 イ)55.0	ア)87.3 イ)61.1	ア)91.8 イ)66.5	ア)48.0 イ)90.0 イ)65.0
キャリア教育、体験活動により、自分の生活を見直すことのできた生徒の割合	%	-	88	85.7	88.0	89.0	87.2	88.0

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度	
行政	学校	・学校運営(生きる力(知育・徳育・体育)をつける地域の未来を拓いていける人材を育む)	学力調査実施校(校数 校) 小中連携一貫教育実施学区数(校区 数)	20	28	28	28	28
	市(国・県)	・学校運営支援(小中連携支援 キャリア教育、体験学習支援 特別支援教育支援 施設整備)	学校数	-	2	9	9	9
市民等	児童・生徒	・学校に通学し学ぶ	児童・生徒数	・地域の特徴を活かした公民館等地域からの企画提案に小学校が参画するなど、小学校と地域が連携した事業は従来から盛んに展開されてきた。今後、小中連携・一貫教育の展開では、中学校区を対象とした地域との連携がポイントとなる。				
	保護者	・児童、生徒を学校に通学させ、必要な学力を習得させる	・不登校児童、生徒の割合 ・家庭学習の時間					
	個人、各種団体	・学校運営にかかわる ・キャリア教育、体験学習の支援	・地域自治組織及び学校評議員からの提言数 ・受け入れ事業所等の数					

3 平成26年度の評価結果

(1)実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2)施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

平成25年度から全中学校区でスタートした小中連携・一貫教育は、中学校区の実態や地域の特性から発想した実施計画に基づき様々な取組を展開した。それは、一人一人の子どもの成長に一層目を向けた一貫性のある指導や交流活動等により、学力向上や不登校問題等の生徒指導の充実につながったと分析する。

・学力向上の観点からは、成果指標 から概ね全国水準にあると分析する。H26年度からは9年間を通した一貫性のある授業づくり「飯田市学力向上『結い』プラン」を策定し、すべての教室で共通して実践している。また、キャリア教育を柱とした取組が「活用する力」の良好な結果につながっていると評価する。

・平成19年度が頂点だった不登校児童生徒数の改善に向けては、支援策である「5つのアクション」[教育支援指導主事配置、体験学習活動実施、カウンセリングマインド研修会実施、学校独自の選択的対策(例:学級編制替、教科担任制導入等)連携事業の効果的実践]を継続して展開している。成果指標 から小学校は前年比倍増、中学校は前年比大幅減である。小学校の倍増は、高学年の不登校数増加が大きな要因である。特に小学校5年生の学級づくりへの支援と検証が必要である。

・成果指標 は小中学校とも前年より上回った。この項目の全国割合は、小学校68.0、中学校43.5であり、飯田市は小中学校ともに大きく上回っている。

【事務事業群テーマ別の評価】

<教育施策の効果的展開>

・国の教育委員会制度改革への対応について検討を行い、教育長任期満了後に移行することとした。また、首長部局との総合教育会議開催の準備を進め、H27.5開催の予定を立てた。

<教育環境の充実>

・学校関連施設整備・管理の面では、竜峡共同調理場の改築と伊賀良小学校の第2体育館建築を行った。

・また、上郷小へは車いす対応のトイレを整備し、またトイレの洋式化、非接触式水栓の設置を行った。丸山小でもトイレの洋式化を行い、順次他校へも拡大する

・学校用機材、教材、人等の整備の面では情報化教育に対応するため、一部学校に電子黒板と全中学校区にプロジェクターを整備した。

<教育機会の提供>

・支援が必要な児童生徒への対応として、特別支援教育支援員を8人増員し42人を各学校へ配置するとともに、業務も「生活・学習支援」と「介助」に区分し、後者は特に車いすの児童生徒について対応することで、インクルーシブ教育の推進を図った。

・不登校児童生徒への対応は、「施策全体の評価」へ記したとおり。

<教育内容の充実>

・確かな学力を育む観点では、「施策全体の評価」へ記したとおり小中連携・一貫教育の推進を柱に展開した。地育力活用学力向上事業では、地域の学習支援ボランティアを活用し、長期休業中の補充学習や家庭学習の採点など教科学習に特化した支援が広がっている。

・豊かな心を磨く観点では、市内をフィールドにキャリア教育やふるさと学習、農業宿泊体験等を展開し、ふるさとに愛着を持つ機会が充実した。このことは、家庭・学校・地域における人間関係の豊かさにつながり、児童生徒の学力形成の基盤になっている。

・健やかな身体をつくる観点では、各調理場で栄養士、調理員が積極的に食育を推進し、生産者も含め児童生徒が給食時に交流をしたり、メニューの工夫など多様な取組を展開している。平成26年度においては、南信濃給食センターが第9回全国学校給食甲子園～地域産物を活かしたわが校の自慢料理～で長野県代表となったことは評価できる。

・地元食材の活用として「主要10品目」の使用率が平成26年度は、54.9%と前年度の52.2%を上回ることができた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

<教育施策の効果的展開>

・新教育委員会制度での総合教育会議の開催や、円滑な教育委員会制度の移行を図るとに、教育振興に関する施策の大綱、教育振興基本計画の策定準備を進める。

・また、飯田らしい教育環境を進めていく際、「学校と地域が協働する仕組みと役割(飯田らしいコミュニティースクール)」、「開かれた学校づくりを進める学校評価(飯田らしい学校関係者評価)」や「魅力ある9年間の教育課程の創造(飯田らしい教育課程)」について研究していく。

<教育環境の充実>

・学校施設の非構造部材の耐震化等を計画的に進め、長寿命化の検討を行い、安心安全な学校教育環境を整える。

・また、ICTを学校教育へ有効活用していくために、研究を続ける。

<教育機会の提供>

・特別支援教育支援員の資質向上を目的とした研修会を位置付ける。

・また、子育て支援課、こども家庭応援センターなどと連携して幼保小の途切れない支援策を充実させていく。

<教育内容の充実>

・飯田らしい小中連携・一貫教育の探索期4年間を総括・検証し共通理解と重点化を図り、H27年度からは深耕期と位置付け「形から質へ」の転換を図る。

・全国学力・学習状況調査(国)、PDCAサイクル調査(県)、標準学力検査(CRT、NRT)の結果分析等から指導改善や指導の充実を図る。

・また、地域で子どもを育てるしくみの充実に向け、小中連携・一貫教育の一環として「飯田らしいコミュニティースクール」のあり方を研究し、地域の特性に合った持続可能な仕組みを具体化する。

・更に、キャリア教育、体験学習といったふるさとを素材にした地域に学ぶ仕組みを充実させていく。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 **施策2-2**

対象：児童・生徒

意図：・生きる力の獲得
・地域の未来を開く
人材の育成

成果指標

- ・基礎学力の水準
・体力測定の結果
- 学校が楽しい
という割合
- ・把握したいじめの
解決割合
・不登校の割合
- 地域活動への
参加割合
- キャリア教育、体験
活動により自分の生
活を見直せた割合

効果的
展開の
施策

- 市教委の円滑な運営
- 小中学校の円滑な運営

教育環境
の充実

- 学校関連施設
整備・管理
- 学校用機材・教材
・人等の整備

教育機会
の提供

- 内的要因
(障害等)への対応
- 外的要因(距離、
金銭等)への対応

教育内容
の充実

- 確かな学力を育む
- 豊かな心を磨く
- 健やかな身体
をつくる

事務事業

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 教育委員会運営事業 | 事務局運営事業 |
| 飯伊市町村教育委員会連絡協議会参画事業 | |
| 学校評議員運営事業 | 視聴覚教育推進事業 |
| 学校管理運営事業 | 教職員住宅維持管理事業 |
| 学校施設管理事業 | 伊賀良小学校新体育館建設事業 |
| 学校施設維持改修事業 | 学校施設大規模改修事業 |
| 学校屋体等構造部材耐震化事業 | 学校下水道整備事業 ²⁷ 新 |
| 学校施設外壁改修事業 | 学校プール濾過器等改修事業 |
| 学校給食施設管理事業 | 矢高共同調理場設備更新事業 |
| 学校給食施設整備事業(改築) | 通学路安全対策事業(別施策) |
| 学校教育振興事業 | 学校教育補助員等補充事業 |
| 情報通信技術活用教育推進事業 | |
| 理科教育等設備整備事業 | |
| 教育相談事業 | 不登校児童生徒支援事業 |
| 特別支援教育支援事業 | 特別支援教育就学奨励事業 |
| 上村スクールバス運行事業 | 複式学級解消事業 |
| 就学援助等事業 | |
| 小中連携・一貫教育推進事業 | 学力向上支援事業 |
| 英語教育推進事業 | 教員指導力向上事業 |
| 飯田の子ども学力アップチャレンジ事業 | |
| 校外活動支援事業 | 飯田東中りんご並木育成活動支援事業 |
| キャリア教育推進事業 | 体験活動推進事業 |
| ふるさと学習推進事業 | (三遠南信中学生交流事業)(別施策) |
| 学校給食運営事業 | 学校給食における域産域消推進事業 |
| 学校保健事業 | |